

学びと育ちをつなぐ

令和5年3月

高知県教育委員会発行

令和4年度から高知県では新たに「保幼小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」に取り組んでいます。そのモデル地域である高知市の春野東小学校区では、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラムの開発や教育方法の充実や改善をめざしての取組を行っています。第7号では、モデル地域における1年目の取組の様子を紹介します。

カリキュラム開発委員会



モデル地域1校5園（公立保、私立保、認定こども園など施設類型の異なる園）の管理職、有識者（県内・県外大学教授）保育主管課、小学校教育委員会、アドバイザー、保護者、教育センターの15名の委員による会議を4回実施し、令和4年度は、地域のよさや課題からめざす子供像を確認したり、架け橋期のカリキュラム作成に向けて様式や内容をどのように表現していくかの議論を行ったりしました。

カリキュラム作成に向けては、実際に子供達を担当している5歳児、1年生の担任が子どもの姿（実践）を基に語り合う「連絡会」を5回実施しました。ここでは、モデル地域内で共通している遊びや活動の実践から、その遊びで子供達が経験していることや育ちつつある姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を通して話し合いました。また、その育ちが小学校の学習（主に生活科）にどのようにつながっているのかを園と小学校の先生と一緒に確認していくことで、園と小学校の教育の共通点や相違点が見えてきました。それぞれの立場での気づきを実践に生かしています。

架け橋連絡会

主体性を育む教育・保育の実現に向けて



他園の取組を知ることで自園の環境構成や援助を振り返ることができる。
（5歳児担任）

園での経験があるので、0スタートではないことが分かった。もっと子供発信を大切にしたい。
（1年生担任）

保幼小合同研修会



5歳児園内研修



モデル地域では各園・校が1回ずつ公開園内・校内研修を実施しました。互いの園の5歳児の保育や小学校1年生の生活科授業を見合っでの研修や連絡会を重ねる中で園同士の横のつながりや園と小学校の縦のつながりが深まっています。

顔の見える関係・気軽に話せる関係が子供同士の交流活動の実施にもつながりました。コロナ禍でなかなか実現できなかった交流活動も、令和4年度は3回実施し、5歳児が安心して期待感をもって就学に向かうことができている。

交流活動



モデル地域の取組や架け橋プログラムの取組方については下記研修にて詳しくお伝えします

- ①令和5年7月25日（火）保幼小接続に関する研修Ⅱ期 13:00～16:30 ふくし交流プラザ
 - ②令和5年12月26日（火）「保幼小の架け橋プログラム」シンポジウム 13:00～16:30 ふくし交流プラザ
- 申込方法：①教育センター ②県幼保支援課へお問い合わせください。